

猫を 愛でたい



菱田春草「黒猫」
明治43年(1910)
播磨屋本店蔵

【展覧会概要】(資料2～3ページ参照)

大きな目にとがった耳、しなやかな体躯にふにぶにの肉球、思わずなでたくなる柔らかい毛並みの猫たち。見た目の愛らしさはもちろんのこと、神秘的で自由気まま、時に甘え上手な猫は、いつだって多くの人々を魅了してやみません。猫は、今ではペットとしての人気が定着し、アニメやキャラクターにも取り入れられ、ゲームを巻き起こすほどより身近な存在となっています。

そのような猫たちは日本美術にも数多く登場します。江戸時代には猫と蝶や牡丹などの組み合わせが吉祥の画題として好まれたほか、鼠除けの猫絵として人気を博しました。歌川国芳に代表される浮世絵では、日々の暮らしの中でかわいがられる様や擬人化された姿で描かれ、さらには物語の化け猫としても登場します。また近代では猫の傑作を何枚も描いた菱田春草が有名です。このように古今東西を通じてさまざまな作家たちが、身近な動物である猫をモチーフに制作し、そのどれもが個性的な魅力で溢れた作品ばかりです。

本展では、歌川国芳等の浮世絵、菱田春草、下村観山ら日本美術院の作家たちが描いた日本画のほか、猫好きで有名な彫刻家・朝倉文夫と木内克の彫塑作品、現在活躍中の作家の作品まで、魅力的な猫を多数紹介します。猫好きの方も、そうでない方も、今よりもっと猫を愛でたくなる展覧会です。

《問い合わせ先》

茨城県天心記念五浦美術館 〒319-1703 茨城県北茨城市大津町椿 2083

TEL:0293-46-5311 FAX:0293-46-5711 E-mail:kouho-tmi@tenshin.museum.ibk.ed.jp

展覧会担当:木内 智美(きうち ともみ) / 広報担当:大津 友美(おおつ ゆみ)

※本リリースの記載内容は、当館ホームページで随時紹介いたします。

(<https://www.tenshin.museum.ibk.ed.jp/>)

平素より当館の事業にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。
標記の件につきまして、本書のとおりご案内申し上げます。

【開催概要】

- 1 展覧会名 「猫を愛でたい」
- 2 会 期 2024年10月26日[土]～12月8日[日]
休館日：月曜日（ただし、11月4日[月・振]は開館、11月5日[火]は休館）
開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
- 3 会 場 茨城県天心記念五浦美術館 展示室A・B・C
- 4 主 催 天心記念五浦美術館企画展地域連携実行委員会・茨城県天心記念五浦美術館
- 5 後 援 朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／産経新聞社水戸支局／NHK水戸放送局／東京新聞水戸支局／
毎日新聞水戸支局／読売新聞水戸支局／LuckyFM茨城放送
- 6 入館料 一般 950(820)円／満70歳以上 470(410)円／高校生 710(590)円／小中生 360(240)円
※()内は、20名以上の団体料金
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳又は指定難病特定医療費受給者証等をご
持参の方および付き添いの方1名は無料
※土曜日は高校生以下無料
※11月13日(水)は茨城県民の日のため全ての方無料
※「にゃん割」として猫に関する物を身につけて来館いただくと、団体割引が適用されます。
(スマートフォンの画像・動画、本物の猫は割引対象外です。)

7 オープニングセレモニー

- ・開会式 10月25日[金] 午後2時～ 茨城県天心記念五浦美術館 展示室A入口
- ・主催者挨拶、テープカット
- ・内覧会 午後2時30分～

8 出品数 全100点

日本画46点、浮世絵32点、彫刻18点、版画3点、油彩画1点
※会期中、一部作品の展示替えを行います。

【前期:10月26日[土]～11月17日[日]、後期:11月19日[火]～12月8日[日]】

9 主な出品作品 ※制作年順

歌川国芳	「見立東海道五拾三次 岡部 猫石の由来」	弘化4年(1847)	東京都江戸東京博物館蔵【前期】
朝倉文夫	「つるされた猫」	明治42年(1909)	東京藝術大学蔵
下村観山	「唐茄子畑」	明治43年頃(c. 1910)	東京国立近代美術館蔵
菱田春草	「黒猫」	明治43年(1910)	播磨屋本店蔵
小茂田青樹	「春の夜」	昭和5年(1930)	埼玉県立近代美術館蔵
木内克	「親子猫」	昭和35年(1960)	水戸市立博物館蔵
竹内浩一	「戯画 女郎蜘蛛とねこ」	平成17年(2005)	郷さくら美術館蔵
國司華子	「オチツケ！」	令和2年(2020)	作家蔵

10 本展のみどころ

- (1) 浮世絵、日本画、彫塑作品など江戸時代から現代までの魅力的な猫の作品 100 点をご紹介します。猫が描かれてきた歴史やさまざまな作家の猫表現から、あらためて猫の魅力に気付いていただければ幸いです。
- (2) 浮世絵は猫好きで有名な歌川国芳のほか、かわいらしい擬人化した猫が登場するおもちゃ絵など 32 点を展示します。江戸時代の絵画からは、^{しほこうかん}司馬江漢らが描いた蝶と猫を組み合わせる長寿を願う吉祥画のほか、^{せんがいぎぼん}仙厓義梵が描いた禅画の虎もご紹介します。(一部展示替えあり)
- (3) 東京美術学校(現・東京藝術大学)の授業で学生が取り組んだ作品、日本美術院周辺の作家を中心とした近代の日本画を展示します。ここでは、当館のある五浦の地で研鑽を積んだ下村観山、菱田春草、木村武山の描いた猫の作品を一堂にご覧いただけます。猫をモチーフにした数々の傑作を残した菱田春草の「黒猫」は、ふわふわの毛並みを巧みに表現しています。他にも岡倉天心が飼っていた猫のエピソードや菱田春草が猫を描いた背景も合わせてご紹介します。
- (4) 彫塑作品では、猫好きで有名な朝倉文夫、木内克らの作品を展示します。水戸市出身で朝倉文夫に師事した木内克は、彫塑作品と版画作品を合わせて 11 点を一挙にご紹介します。
- (5) 後半は、堀文子、竹内浩一ら現代作家の猫の作品をご紹介します。現代の作家がどのように猫を表現しているのかを楽しんでご覧いただきたいと思います。また、第 11 回天心記念茨城賞受賞者で院展を中心に活躍中の日本画家・國司華子と、茨城県在住の陶芸家・田崎太郎の作品を特集展示します。田崎太郎は本展のために制作した新作を展示します。
- (6) 会期中は出品作家によるニャーティストトーク(アーティストトーク)や、『猫が歩いた近現代』(吉川弘文館)の著者である真辺将之氏(早稲田大学文学学術院教授)による講演会、来館者から募集した猫ちゃんフォトを動画にして紹介する「うちの猫(こ)自慢」など、猫に関する盛りだくさんのイベントがお楽しみいただけます。さらに、猫に関する物を身につけて来館いただくと団体割引が適用される「にゃん割」を実施します。

11 広報文

- (1) 大きな目にとがった耳、しなやかな体躯にぷにぷにの肉球、思わずなでたくなる柔らかい毛並みの猫たち。見た目の愛らしさはもちろんのこと、神秘的で自由気まま、時に甘え上手な猫は、いつだって多くの人々を魅了してやみません。そのような猫たちは、日本美術にも数多く登場し、蝶や牡丹などを組み合わせた吉祥画、擬人化された姿や化け猫として描かれた浮世絵、近現代の絵画、立体作品等、現代に至るまで、さまざまな分野の作家たちにより表現されています。
本展では、江戸時代の絵画から現在活躍中の作家の作品まで、魅力的な猫を100点紹介します。猫好きの方もそうでない方も、今よりもっと猫を愛でたくなる展覧会です。(289字)
- (2) 見た目の愛らしさはもちろんのこと、神秘的で自由気まま、時に甘え上手な猫は、いつだって多くの人々を魅了してやみません。そのような猫たちは、日本美術にも数多く登場し、蝶や牡丹などを組み合わせた吉祥画、擬人化された姿や化け猫として描かれた浮世絵、近現代の絵画、立体作品等、現代に至るまで、さまざまな分野の作家たちにより表現されています。
本展では、江戸時代の絵画から現在活躍中の作家の作品まで、魅力的な猫を多数紹介します。(207字)
- (3) 本展では、江戸時代の絵画から現在活躍中の作家の作品まで、魅力的な猫を多数紹介します。猫好きの方もそうでない方も、今よりもっと猫を愛でたくなる展覧会です。(76字)

12 会期中のイベント

(1) 講演会「猫はなぜ愛されるようになったのか?—《化け猫》から《大切な家族》へ」

『猫が歩いた近現代』(吉川弘文館)の著者が猫の歴史について語ります。

講師：真辺 将之氏(早稲田大学文学学術院教授/早稲田大学歴史館館長)

日時：11月3日[日・祝] 午後1時30分～午後3時

会場：講堂

定員：114名 ※要事前申込、要企画展入場券

(2) ニャーティストトーク(アーティストトーク)

展覧会出品アーティストが、にゃんとも素敵な制作エピソードや作品に込めた想いを語ります。(約30分)

日時：11月16日[土] 午後1時30分～ 講師：國司華子氏(日本画家)

日時：11月24日[日] 午後1時30分～ 講師：宮森敬子氏(現代美術作家)

日時：11月24日[日] 午後2時30分～ 講師：田崎太郎氏(陶芸家)

会場：企画展示室 ※要企画展当日入場券、申込不要

(3) 館長によるギャラリートーク

当館館長(小泉晋弥)が作品解説を行います。

日時：10月26日[土]、11月17日[日] 午後1時10分～

会場：企画展示室 ※要企画展当日入場券、申込不要

(4) ニャラリートーク(ギャラリートーク)

猫好き展覧会担当者と推し猫作品について一緒に語りませんか。

日時：12月1日[日]午後1時10分～

会場：企画展示室 ※要企画展当日入場券、申込不要

(5) ワークショップ「ふわふわを描こう」

日本画の画材を使って思わず愛でたくなる“ふわふわ”の動物を描きます。

日時：11月23日[土・祝] 午前10時～、午後1時30分～

会場：講座室

定員：各回20名程度 ※要企画展入場券、当日先着順

(6) うちの猫自慢

みなさまが投稿した猫ちゃんの姿を動画でご紹介します。

募集期間：8月27日(火)～12月1日(日)

会場：企画展出口側 展望ギャラリー、YouTube

(7) オープンワークショップ「猫耳大作戦」

手作りした猫耳を身につけて美術館をお散歩しませんか。みんなで猫耳をつけて館内を猫だらけにする大作戦です。参加無料。どなたでも参加できます。

(8) 来て・見て・発見!アートツアーfor kids

日時：11月2日[土] 午前10時～

会場：展示室、講座室

定員：小中学生と保護者5組(1組4名まで)

※要事前申込(先着順)、保護者のみ要企画展入場券

(9) 第35回トワイライトコンサート

出演：小林日和(ヴァイオリン)、永田絵里子(ピアノ)

日時：11月2日[土] 午後5時～

会場：エントランスロビー

定員：200名程度 ※要企画展入場券、当日先着順

(10) 天心書齋障壁画ツアー

日時：12月7日[土] 午前10時～午前11時

会場：岡倉天心記念室

定員：30名 ※要当日入場券、当日先着順

(11) 映画会(五浦名画座)

今回はなんと、ねこ特集。企画展とご一緒に。

日時：11月10日[日] ねこ特集

午前の部「日々ノ境メ。國司華子」(2012年/18分/カラー/日本/制作：常陽藝文センター)

「こねこ」(1996年/84分/カラー/ロシア)

午後の部「日々ノ境メ。國司華子」(2012年/18分/カラー/日本/制作：常陽藝文センター)

「ネコのミヌース」(2001年/83分/カラー/オランダ)

会場：講堂

定員：各回114名 ※当日受付先着順、無料、全席自由

上映時刻：午前の部9時45分～、午後の部1時30分～(15分前開場)

【広報用図版】 ※表紙の画像も提供可能です。



歌川国芳「見立東海道五拾三次 岡部 猫石の由来」
弘化4年(1847) 東京都江戸東京博物館蔵
【前期展示10月26日～11月17日】



朝倉文夫「つるされた猫」
明治42年(1909)
東京藝術大学蔵



小茂田青樹「春の夜」
昭和5年(1930)
埼玉県立近代美術館蔵



木内克「親子猫」
昭和35年(1960)
水戸市立博物館蔵



竹内浩一「戯画 女郎蜘蛛とねこ」
平成17年(2005)
郷さくら美術館蔵



國司華子「オチツケ！」
令和2年(2020)
作家蔵

※図版使用に際しての注意

- ・展覧会の紹介を目的とする内容にのみご使用願います。
 - ・図版への文字乗せ、トリミング等の一切の加工はご遠慮ください。
 - ・図版使用の際は必ずキャプションを明記してください。
 - ・図版はデータでの提供となります。
- 広報担当まで連絡、または右QRコードを読み込んでリクエストしてください。



【問い合わせ先】 茨城県天心記念五浦美術館 〒319-1703 茨城県北茨城市大津町椿 2083

TEL: 0293-46-5311 FAX: 0293-46-5711 E-mail: kouho-tmi@tenshin.museum.ibk.ed.jp

展覧会担当: 木内 智美 / 広報担当: 大津 友美

※本リリースの記載内容は、当館ホームページで随時紹介して参ります。



当館HPへ